

民間団体・事業者の役割 ～「三条市地域福祉計画」より～

- ・ 知識や経験の豊富な高齢者を積極的に活用していくことを期待します。
- ・ 社会福祉協議会等には、ボランティア機会の提供や、文化・教養分野を含めた各種講座等の開催を期待します。

具体的な取り組み

- ・ 地域活動の推進者に経験豊かな人材を活用できるよう努めます。
- ・ 地域の伝統を地域で共有し、また次世代に積極的に伝えます。
- ・ 民間団体・事業者は、活動の場の提供に努めます。
- ・ 社会福祉協議会は、ボランティア活動や生きがい対策となる各種講座の開催や、地域活動の支援に努めます。

～住民懇談会での意見～

- ・ 夜でも習い事ができたらいいな。
- ・ 蛍を育てたい。花を育てたい。
- ・ 世代間交流ができるまちであつたらいいな。
- ・ ボランティアの事例を紹介してほしい。

《実施計画》

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
ボランティア講座の開催	→			
ボランティア事例の広報	→			
生きがい対策の講座開催	→			

行政に期待すること ～住民懇談会での意見～

- ・ 福祉、文化施設の整備。
- ・ 元気な高齢者をもっと増やして、活用してもらいたい。
- ・ まちづくりサポート交付金の使途の公表。(情報公開)

3 住民参加で共に支え合う地域づくり

<課題>

地域福祉を推進するためには、地域住民一人ひとりが、自分たちの地域に関心を持ち、共に支えあうという意識を持つことが重要です。しかし、地域社会の現状は、少子高齢化や核家族化、価値観の多様化など、地域を取り巻く環境が大きく変化しており、「お互い様」といったご近所との付き合いが減少し、地域の連帯感や家族のきずなが希薄化していると言われます。

また、ノーマライゼーション*の実現に向けて、家庭や学校、地域などそれぞれの環境において福祉教育や地域の連帯感を高める取り組みが求められます。

特に、7.13 水害の教訓から、日頃の近所付き合いや地域活動への積極的な参加を通しての、地域の情報共有や、「自助」・「共助」の仕組みづくりや関係組織の連携強化が課題です。

<住民懇談会での意見>

- ・ 地域の交流、連帯感、つながりが希薄になった。
- ・ 近所のコミュニケーションがない。
- ・ 新しい住民との交流がない。
- ・ 自治会長の顔を知らない。(地域に関心がない)
- ・ 悪いことをしている子どもを叱る人が少ない。
- ・ 年齢による考え方の差が大きい。
- ・ 自治会の活動に元気がなくなってきた。(若者世代の参加が少ない)
- ・ 若者がもう少し(地域、自治会)活動に関心を持ってくれたらいいな。
- ・ 消極的で他力本願的である。(人任せ)
- ・ 世代を越えて人と人とのつながりがあるまちであつたらいいな。
- ・ 地域のコミュニティをより活発にできたらいいな。

* ノーマライゼーション… (normalization) 北欧諸国から始まった社会福祉をめぐる社会理念の一つ。私たちの地域には老若男女、障がいのあるなしを問わず、全ての人が平等で、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。またそれに向けた運動や施策なども含まれる。